科目名	道徳教育の理論と方法　　Moral Education						
科目担当者	中本 幹生　　NAKAMOTO Mikio						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　自由科目］ 経営学部・経営学科［専門教育科目　自由科目］					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	近年、子ども達の規範意識やモラルの低下が問題となり、道徳教育の重要性が指摘されている。しかし現在、学校教育における道徳教育はその指導のあり方が必ずしも十分とは言えない。この授業では、教育現場における道徳教育の実践をより豊かなものにできるように、理論と実践の両面から取り組んでゆく。 授業の進め方としては、まず講義形式により、道徳教育の本質や歴史、現状と課題などの確認を行い、代表的な道徳性の発達理論の紹介をした上で、学習指導要領で示された道徳教育の目標や主な内容を見てゆく。 後半は、道徳教育の全体計画の必要性についてまず確認してから、学習指導案の作成の仕方について、教材の特徴を踏まえた多様な指導法とともに、学習評価のあり方を含めて解説する。その上で、実際に模擬授業を行い、実践的な力を身につけてもらう。						
授業の到達目標	①道徳教育の本質、歴史、現状と課題についての知識および問題意識をもつ。 ②道徳性の発達理論についての正確な知識をもつ。 ③学習指導要領で示された道徳教育の目標や主な内容を理解できる。 ④教材の特徴に応じた学習指導案を作成し、授業を行う実践力を身につける。 ⑤学習評価のあり方を理解し、また自ら授業を改善できる視点をもつことができる。						

授業計画・内容		
	1	道徳とはなにか：その本質について、および、道徳教育とは何か：その本質と目標
	2	道徳教育の歴史
	3	道徳教育の現状と課題
	4	道徳性の発達理論（1）ーフロイト、ピアジェー
	5	道徳性の発達理論（2）ーコールバーグ、ブルー
	6	学習指導要領について
	7	道徳教育の全体計画と年間指導計画
	8	学習指導案の作成の仕方
	9	多様な指導法の例
	10	学習指導案の例
	11	模擬授業（1）
	12	模擬授業（2）
	13	模擬授業（3）
	14	模擬授業（4）
	15	模擬授業（5）

授業外学修 (事前学修)	・第 1 回～第 10 回：毎回、授業範囲を予習し、専門用語の意味等をあらかじめ調べておくこと（毎週 2 時間程度） ・第 11 回～第 15 回：模擬授業のための、学習指導案、ワークシートの作成、および授業のリハーサルを行うこと（10 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	・第 1 回～第 10 回：毎回、授業内容について要点を整理し、不明な箇所を調べておくこと（毎週 2 時間程度） ・第 11 回～第 15 回：各模擬授業の優れた点・改善点について考察し、まとめておくこと（毎週 2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	学習指導案を作成し、模擬授業を実施できたか	50%	④、⑤
	作成課題（ワークシート等）	25%	④
	授業態度	25%	①、②、③

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説　「特別の教科道徳編」』（教育出版）
参考文献	授業中にその都度指示する
その他	